

## 平成 28 年度「アウトリーチ（訪問支援）研修」に係る研修計画書

## 【 1 . 機関・団体概要】

機関・団体名	浜松市精神保健福祉センター (浜松市ひきこもり地域支援センター)
機関・団体代表者	所長 二宮 貴至
所在地	〒430-0929 浜松市中区中央一丁目12-1 県浜松総合庁舎4階
電話番号	053-457-2709
FAX番号	053-457-2645
メールアドレス 本研修担当者	sei-hokenc@city.hamamatsu.shizuoka.jp 担当者名：河合 龍紀
HPアドレス	<a href="http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp">http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp</a>
研修実施場所 (所在地と異なる場合のみ記載)	〒430-0929 浜松市中区中央一丁目13-3 浜松市民協働センター3階 浜松市若者コミュニティープラザ内 (特定非営利活動法人 遠州精神保健福祉をすすめる市民の会) 「ひきこもりサポートセンターこだま」
研修実施場所の最寄駅	JR線「浜松駅」(徒歩15分)、遠州鉄道「遠州病院駅」(徒歩3分)
組織概要 (設立趣旨)	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第6条に基づき設置(国の「ひきこもり対策推進事業実施要領」)されたもので、市民の精神保健の向上及び精神障害者の福祉の増進を図るため、心の健康や病気についての相談、知識の普及、精神障害者とその家族への支援、各関係機関への技術支援などを実施している。 また、浜松市ひきこもり地域支援センターは、ひきこもり当事者や家族の一次相談機能を精神保健福祉センターが担う一方で、訪問支援や居場所機能をNPO法人(特定非営利活動法人 遠州精神保健福祉をすすめる市民の会)が担うという官民協働の体制である。
職員数	全職員数 17名(常勤11名/非常勤6名)
機関・団体における アウトリーチの特徴等	上述のとおり、本市におけるひきこもり相談においては、一次相談等を行政機関が、訪問支援等をNPOが行うといった官民一体でケースの支援にあたる「官民協働」の体制となっている。アウトリーチを行う事業についてはNPO法人に委託し、医療機関や福祉施設、教育委員会等での就業経験のある精神保健福祉士を中心として支援を行っている。 また、同NPO法人は、精神保健福祉士養成のテキストで数ページにわたり取り上げられるなど、高い実績を有している。本研修においても協働で行う。
機関・団体で運営している 相談・支援機関名	浜松市ひきこもり地域支援センター (浜松市と「特定非営利活動法人 遠州精神保健福祉をすすめる市民の会」が協働で運営) 地域若者サポートステーションはままつ (「特定非営利活動法人 遠州精神保健福祉をすすめる市民の会」が運営)

## 【 2 .平成 27 年度中のアウトリーチの実績概要】

アウトリーチ件数（2月29日現在）：316件

アウトリーチ以外の相談件数（来所、外出同行、電話メール相談など）：4,119件

対 象：概ね中学卒業後～30代

支援方策：アウトリーチによる相談、対人関係作り、外出同行、（訪問ケースについて）家族相談、電話、メール相談、医療、福祉機関との連携

## 【 3 .過去 3 年間における国又は地方公共団体の委託事業や自主事業等】

行政機関のため、特に該当なし。 浜松市精神保健福祉センターの機能についてはHP等を参照（「特定非営利活動法人 遠州精神保健福祉をすすめる市民の会」は別途となる）

## 【 4 .過去 2 年間における子供・若者の支援に関する研修実績】

(1) 内閣府「アウトリーチ研修（訪問支援）研修」に係る研修生受入

・[平成27年度] 行政機関職員2名、NPO法人職員1名 平成27年10月5日～10月9日

## 【 5 .「アウトリーチ（訪問支援）研修」に係る講師（担当者）】

	「アウトリーチ研修」実施上の役割	氏 名	・関連保有資格 ・アウトリーチの経験年数
1	本研修及び訪問支援の指導員	大場 義貴	・精神保健福祉士、臨床心理士 ・アウトリーチの経験 25年
2	本研修及び訪問支援の指導員	加藤 寛盛	・精神保健福祉士 ・アウトリーチの経験 12年
3	本研修及び訪問支援の指導員	鈴木 綾乃	・精神保健福祉士 ・アウトリーチの経験 3年
-	研修コーディネータ	河合 龍紀	・精神保健福祉士 ・アウトリーチの経験 7年

## 【 6 .研修生の受入条件、研修内容等】

	受 入 条 件
受入可能な日程	11月14日（月）～11月18日（金）（5日間）
受入可能な人数	3名
保有資格の要否、その他の受入条件	特に指定はないが、精神保健福祉分野についての基礎的な知識や施策事業等に理解のある者（又は実地研修を機に事前に学ぶ意欲のある者）が望ましい。

## 研 修 内 容

下記の「初日」～「最終日」までの研修内容については、過去の実績に基づいた予定となります。

アウトリーチの同行やプログラム等の開催に応じて、随時、変更となります。

研修全体の概要	アウトリーチの同行や事例解説、居場所（フリースペース）及び地域若者サポートステーション等における当事者の対応、アプローチ方法、関係機関との連携、円滑なリファーやオファー等の実践を扱った研修を行う。
研修初日の開始予定時刻 （午前の開始可）	9時00分
研修最終日の終了予定時刻 （午後の終了可）	16時00分
初日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・センター概要、法人概要、事業概要、研修内容、留意点等について説明</li> <li>・研修生の自己紹介、職務内容や経歴等の概略について説明を受ける</li> <li>・連携機関の紹介・見学</li> </ul>
2日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉センターでのミーティング参加</li> <li>・ひきこもりケースの事例検討会に参加</li> <li>・ひきこもりコミュニティスペースでの利用者対応</li> </ul>
3日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問</li> <li>・訪問後、ケースについての振り返り</li> <li>・ひきこもり当事者グループでの利用者対応</li> </ul>
4日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問</li> <li>・訪問後、ケースについての振り返り</li> <li>・地域若者サポートステーション事業について研修</li> </ul>
最終日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会体験事業所の訪問</li> <li>・実地研修の振り返り、まとめ</li> <li>・意見交換</li> </ul>
研修内容の配分	講義 2：利用者対応 3：演習 3：その他 2
研修生の宿泊について	特に指定はない
実地研修における アウトリーチの回数（予定）	2回程度 被支援者の状態（健康状態）等によっては実現できない場合もある
備考欄	動きやすい服装、靴、室内用の運動靴を持参すること